

科目名	インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。従って本件で、単位修得のためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することを原則とする。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。また、確実な成果を上げるために、前期で開設されるインターンシップ入門を受講すること。

評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。従って、本件で、単位修得のためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することを原則とする。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。また、確実な成果を上げるために、前期で開設されるインターンシップ入門を受講すること。

評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。そのためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することが望ましい。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、1週間程度はしっかりとフィードバックし、反省点を明確化しておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。そのためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することが望ましい。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックし、反省点を明確化しておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	家族心理学		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期～成人に至るまでの個人の発達プロセスについては、既に学んでこられたことと思います。世代の異なる家族メンバーが、家族という関係の中でどのように出会うのか、ともに生活する中で、どのように関係を作り上げ、どのように発達していくかについて考えます。

科目の概要

この科目では、現代の家族問題について考えます。ジェンダーを主要な切り口に、家族心理学の知見に触れながら、親子関係や夫婦関係など、家族という人間の営み・家族関係にまつわる心理が、いかに社会文化的に規定されているものであるかを理解してほしいと思います。

学修目標 (= 到達目標)

1. 家族の中で個人 (大人・子ども) がどのように発達するかについて理解する。
2. 家族という関係は、ジェンダーや社会・文化、時代と深く関わっていることを理解する。
3. 自分の家族体験や家族観を相対化する視点を持つ。

内容

1	近代家族イメージの成立 (テキスト1, 3, 4章)
2	現代の家族 (テキスト2, 5, 6, 7章)
3	現代女性のライフコースと家族 (テキスト21章)
4	育児ストレスとは何か (映像資料視聴)
5	育児ストレスはなぜ起こるか (テキスト18章)
6	家族役割分担 (テキスト8, 9章)
7	日本の夫婦関係 (テキスト10, 11章)
8	性別役割分業とワーク・ライフ・バランス (テキスト12, 13章)
9	家族ストレス (テキスト29章)
10	子どもの価値 (テキスト14, 15章)
11	親子関係の発達 (テキスト14, 15, 16, 17章)
12	家族システム論 (テキスト23, 25章)
13	家族カウンセリング (テキスト20章)
14	新しい家族のかたち (テキスト27, 28, 30章)
15	まとめ

評価

授業内で行う小課題 (感想のコメントペーパー含む) 50% , 最終課題50% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章（「内容」欄参照）を読み，わからない用語を調べ，図表の読み取りをしておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。

【事後学修】テキストの該当章と授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

橘木俊詔・迫田さやか『夫婦格差社会』中公新書

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生涯発達領域 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴や小レポートを実施する。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	乳児期の認知発達
5	幼児期の認知発達
6	個性の発生
7	「自己」への気づき
8	愛着と親子関係
9	愛着と親子関係
10	他者との関係の発達
11	情緒と感情の発達
12	言語とコミュニケーションの発達
13	遊びと想像性
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点10点、授業時の小テスト・小レポート30点、期末試験60点。合格点60点。

授業外学習

【事前予習】取り上げるテキストの内容を事前に読み、疑問点などをまとめておく

【事後学修】テキストを見直しながら、小テストへの取り組みを行ったり、授業内容の振りかえりを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

【科目の性格】

本科目は、人間発達心理学科の専門科目である。生涯発達領域の「乳幼児期の心理学」や「青年期の心理学」「中高年期の心理学」などと関連が強い。児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面からとらえると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。

【科目の概要】

自己概念や道徳性の発達過程、遊びや仲間関係の発達・変化など、児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面について学ぶ。また同時に、児童虐待や発達障害など、児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。

【学修目標】

児童期の心理を理解するための基本的な枠組みを身につける。

将来、子どもに関わる職業に就く学生や将来子どもを持つ学生が、自身の子ども観を再認識し、知識を深める。

本科目は「こどもサポーター（こころの支援）」資格要件科目です。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	イントロダクション～児童期の特徴
2	児童期を取り巻く発達理論
3	児童の心の理解 認知・言葉の発達
4	児童の心の理解 自己意識と自尊感情
5	児童の心の理解 セルフコントロールとレジリエンス
6	児童の心の理解 道徳性の発達
7	児童の心の理解 仲間関係の発達
8	児童の心の理解 社会的行動の発達
9	児童の心の理解 性役割の獲得とアイデンティティ
10	児童期を取り巻く問題 地域社会の変容と子ども
11	児童期の問題 児童虐待とは
12	児童期の問題 発達障害の理解
13	児童期の問題 不登校とは何か
14	児童への援助～子どもに寄り添うとは
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】事前にキーワードを調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著 『子どものこころ 児童心理学入門』 有斐閣アルマ 2003

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は人間発達心理学科の専門科目であり生涯発達領域の必修科目である。人間の発達段階の内、青年期に焦点をあてる。1年次の発達心理学概論が基礎となる。乳幼児期の心理学、児童期の心理学とあわせて学習することで人間が成人するまでの発達段階を詳しく理解することができる。

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起るのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。

青年期について理解を深めることはもちろんであるが、青年期の最中にある受講生諸君にとって、講義内容を自分自身の問題としてとらえ自ら考える契機と成ることも目標とする。

内容

1	ガイダンス：授業の概要
2	青年期とは
3	青年心理学の成立
4	青年心理学の研究手法
5	大人になること
6	青年期の身体的変化
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情
8	青年期の自己(2)アイデンティティ
9	性役割
10	理解度の確認
11	将来決定(1)：職業興味検査
12	将来決定(2)：進路決定と職業
13	青年期の人間関係
14	青年期の感情
15	まとめ

評価

期末テスト60点+中間テスト30点+授業内の課題10点とする。60点以上を合格とし、達しない場合再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、予習してくる。

【事後学修】授業内容についてノートを整理し復習をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。

学習は、まず、題材に関するペアワークの形式により行う。次に、ペアワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

1	ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要
2	「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい
3	「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み
4	「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待
5	「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実
6	「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方
7	「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差
8	「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常
9	「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き
10	「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？
11	「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実
12	「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実
13	「不妊治療・生殖医療の現実と新たな生命」：中年期の晩婚親側の論理と生命倫理

14	「代理出産ビジネスの現実と経済的格差による女性の尊厳への搾取」：経済的誘惑の実情
15	学習のまとめ：「暴力の連鎖と自分（非暴力・市民的不服従の観点から）」

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『毎回の小レポートの内容』を指す。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(ペアワークへの取り組みと毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート』が30点、の構成にて配点し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学修】 毎講義内に提示する題材について、教員が示した論点から題材を振り返りの課題を課します。「振り返り」の結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、評価に含めます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

- 「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」
- 「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」
- 「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」
- 「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」

科目名	母子関係論		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格 :

本科目は、生涯発達の視点から母親と子どもの関係を学ぶ必修科目です。

2. 科目の概要 :

妊娠、出産、育児という過程で展開される養育者、とりわけ母親の発達とその子どもの発達の相互の関係について学びます。

3. 学修目標 :

- (1) 子どもの発達と養育者との関係について学ぶ。
- (2) 養育者としての母親の存在について考える。
- (3) 子育て支援について考える。

内容

1. オリエンテーション
2. 妊娠・出産と母親
3. 養育者と子どもの絆の形成
4. 精神的健康の保持と安定した愛着形成のための視点
5. 妊娠期からの父母子の関係
6. 子育て期のソーシャルサポート
7. 虐待の可能性とその防止(1)
8. 虐待の可能性とその防止(2)
9. 虐待の可能性とその防止(3)
10. 養育者としての母親の存在・親としての力
11. 子育ての力を高める・親としての発達
12. グループ発表(1)
13. グループ発表(2)
14. グループ発表(3)
15. まとめ

評価

100点満点中、日常点(課題提出・小テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

初回授業時に指示します。

科目名	ライフサイクル論		
担当教員名	塩谷 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「人間発達心理学」専攻の学生を対象とするため、将来心理・福祉の仕事に関わる可能性も予測して、人の一生をライフサイクルととらえ、その歩みを生涯発達の視点からみてゆく。

科目の概要

エリクソンのライフサイクルの理論をベースにして一生の歩みを理解すると共に、少子高齢化の進む現代社会の変化に対応する発達課題と危機、その対処方法について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

人は、その誕生から死に至るまで生涯を通じて発達する可能性を持つ存在であるとの立場に立ち、文化や社会など周辺環境の影響や他者とのコミュニケーションによる相互作用の中で、いかにして自己のアイデンティティを確立し、発達し続けることができるのか考察を深めたい。

内容	
1	序章 人間の発達について
2	乳児期 < 0 ~ 1 歳 >
3	幼児前期 < 1 ~ 3 歳 >
4	幼児後期 < 3 ~ 6 歳 >
5	学童期 < 6 ~ 12 歳 >
6	思春期 < 12 ~ 18 歳 >
7	青年期 < 18 ~ 22 歳 >
8	前半の復習
9	成人前期 < 22 ~ 30 歳 >
10	成人中期 < 30 ~ 50 歳 >
11	成熟期 < 50 ~ 65 歳 >
12	成人後期 < 65 ~ 75 歳 >
13	成人後期 < 75 歳 ~ >
14	女性のライフサイクルについて
15	まとめ

評価

授業への参加・リアクションペーパー (50%)、テスト(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業計画に記載した教科書の範囲を読んで、内容を把握して出席すること。

【事後学修】配布したレジメ・資料と教科書を読み合わせて復習し、理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】服部祥子 『生涯人間発達論』 医学書院

【推薦書】岡村祐子・松下美知子編 『新女性のためのライフサイクル心理学』 福村出版

【参考図書】馬場禮子・永井徹共編 『ライフサイクルの臨床心理学』 培風館

科目名	文化と発達		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質：

心理専門科目「生涯発達科目」における選択科目のひとつである。

授業は講義形式だけでなく、適宜「テーマ」を設定し、ディスカッションなどの機会を設け、学生間での「思考の交流」を促す。

科目の概要：

「文化」と「教育」の観点から、子どもの認知発達のメカニズムについて学ぶ。主に、言語や表象、因果推論の発達プロセスを扱う。また、文化的・教育的背景に基づいて、今日の子どもたちがかかえる困難や発達的問題について、家庭・地域・学校などでの支援のあり方を考える。豊かな発達を実現するための環境や社会的条件とはどのようなものか多角的に検討する。

学修目標 (= 到達目標)

子どもの認知発達の基本的特徴を学ぶとともに、その発達的变化をもたらすメカニズムについて理解を深める。

学生は自身の卒業研究や研究と社会とのつながりを意識しながら学んでほしい。

内容

- 1 ガイダンス
- 2 認知発達の基礎 - ヒトから人へ
- 3 認知発達の基礎 - 感覚を通して周囲の世界の認知する
- 4 文化と言語発達
- 5 文化と概念発達
- 6 コミュニケーションの発達：情報と文化
- 7 コミュニケーションの発達：情報と教育
- 8 社会に生きる力 - 因果推論の発達
- 9 社会に生きる力 - 論理的思考の発達
- 10 社会に生きる力 - 学習とメタ認知
- 11 認知発達と支援：発達障害の発見
- 12 認知発達と支援：学習障害を考える
- 13 認知発達と支援：文化と教育(1)
- 14 認知発達と支援：文化と教育(2)
- 15 まとめ

授業の進行状況により、講義内容・順番等を若干変更することがある。

評価

中間試験（2回、計50点）、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	発達心理学特講		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科専門科目 生涯発達科目

科目の概要

誕生～小学校入学までの6年間の乳幼児の発達について理解し、ゼミの場で梗概 (レジюме) を作成してゼミの場で発表し、ゼミの全体討論を通して理解を深めることを目的にしています

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 専門書を講読することを通して、子どもの発達について理解する。
- (2) 研究レポートをまとめることによって論文をまとめる体験をする。
- (3) 発達心理学特講を受講し終えるまでに卒業研究のテーマを決めるよう問題意識をもって臨んでください。

内容

第1講 オリエンテーション；テキストを配布し、担当を決める。

第2～15講 一人3節分を担当し、一回の授業に2人 (一人30分) に内容を紹介する。30分は全体討論にあてる。

レジюмеに盛り込むこと；

担当する節の要約 論点 研究計画 (リサーチクエストョン 仮説 研究方法)

レジюмеの構成；

各節の内容のポイントを5行程度でまとめる。

ゼミ討論で問題にしたい点を2行以内にまとめる。

この節に関連したことを卒業研究で取り上げるとしたら、どんなリサーチクエストョン (RQ) についてどんな方法 (追試・観察・参与観察・実験・臨床面接・アンケート調査・・・など、できるだけ具体的に) で探究できるか提案する。

以上3点を A 4 版に1枚～2枚程度にまとめて、31枚プリントしてゼミの冒頭で配布する。

担当者の役割；

担当者は各節を10分でまとめあわせて30分で発表を終えるよう準備してください。

レジюмеを31名分用意して授業に臨み、発表時に配布していただきます。

【レポート課題】

以下の2つの問に回答していただきます。提出期限は1月29日午後5時

問1 . 子どもは変わる・大人も変わる 人間発達の可塑性 1～7節

問2 . 生活世界から学びの世界へ 9～12節

それぞれの節を読み、1問あたり3,000字以内でコメント作文をまとめてください。

評価

日常点40%とレポート60%として、100点満点に換算して評価する。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業日に取り上げる6節分の予習をして関心をもったり、担当者に質問したい点を考えてきてください。受講者は討論に積極的に参加すること、少なくとも1回は発言していただきます。

【事後学修】その日とりあげたテキストの該当章を読み返し、学びの振り返りをする。事前予習時に記した問題点や疑問に回答しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目名	発達臨床心理学		
担当教員名	綿井 雅康、伊藤 恵子、安藤 則夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、これまで学んできた発達理論、発達研究を実際の発達支援に生かすための応用力を培うための科目です。

科目の概要：

出生前から高齢期にいたる各ライフステージにおける発達とその支援について学習します。また、精神障害の基礎知識、発達障害の基礎知識などについて受講者とともに考えていく予定です。

学修目標：

1. 各ライフステージにおける発達とその支援について理解する。
2. 精神障害の基礎知識を学ぶ。
3. 発達障害の基礎知識を学ぶ。

内容

1. オリエンテーション
2. 発達臨床心理学とは
3. 胎生期～新生児期における発達とその支援
4. 乳児期における発達とその支援
5. 幼児期における発達とその支援
6. 児童期における発達とその支援
7. 青年期における発達とその支援
8. 成人期における発達とその支援
9. 高齢期における発達とその支援
10. 精神障害 (1) 障害とは (2) 精神障害とは
11. 発達障害 (1) 発達障害とは (2) 代表的な発達障害
12. グループ発表 (1)
13. グループ発表 (2)
14. グループ発表 (3)
15. まとめ

評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の該当資料を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	カウンセリング基礎（技法）		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

1年次に学修した「カウンセリング基礎（理論）」の応用科目である。心理的問題を解決する方法のひとつにカウンセリングがあるが、そのカウンセリングの基本的な技法を専門的に理解を深める。その際、対人関係における自分と他人との特徴を知るといことは、人間的成長にも密接につながる性格の科目である。

科目の概要

カウンセリングとはどのようなものか、またどのように進められるのかというカウンセリングの基本的な技術や技法をロールプレイなどの体験や事例を通して学ぶ。

学修目標

心理的問題や悩みなどの解決する方法を学ぶため、他者との積極的関与を意識して学ぶことが求められる。そのためカウンセリングの基礎基本となる技術（技法）やカウンセリングがどのように進められるのかが身につく。したがって、何らかの心理的問題を抱える人の心の理解が深められる。

内容

1	はじめに（カウンセリング技法を取り巻く基礎概念）
2	カウンセリングの技法とはなにか（理論に基づく技法、進行過程に基づく技法）
3	カウンセリングの技法と効果の関係（認知の変化、情動の変化、行動の変化、生理的变化）
4	クライアントの観察技法
5	カウンセリング場面における非言語的技法
6	カウンセリングの傾聴技法（明確化、感情の反映）
7	カウンセリングの傾聴技法（言い換え、要約）
8	カウンセリングの活動技法（特定の情報、矛盾の提示）
9	カウンセリングの活動技法（解釈、情報の提供）
10	傾聴・活動技法以外のカウンセリング技法（リフレーミング、語調反射）
11	傾聴・活動技法以外のカウンセリング技法（自己開示、反復、沈黙）
12	クライアントの問題を定義づける技法
13	カウンセリングの事例研究（1）、目標を設定する技法
14	カウンセリングの事例研究（2）、抵抗とその対応方法
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への解答や授業中の姿勢や態度（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキスト等をしっかり読んでおく。

【事後学修】1時間程度の学習時間を決めて、毎回の授業で行った重要な視点や事項をノートなどにまとめておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用する教科書：大谷 彰 著（「カウンセリングテクニック入門」二弊社）

推薦書：福山清蔵 著（「実践カウンセリングワークブック」（日本・精神技術研究所）」

参考図書：教室で紹介する

科目名	精神保健概論		
担当教員名	今井 朋実、谷口 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。

科目の概要

現代社会においては、不登校やいじめをはじめとして、虐待、非行、さらには精神疾患、心身症など、非常に多岐に渡る問題を孕んでいます。本講義では、精神保健の定義と概念、ライフサイクルからみた精神障害及び発達障害の基礎知識などについて、精神保健の緒課題のメカニズムとその支援方法について検討していきます。

学修目標 (= 到達目標)

精神保健の定義や対象について縦断的および横断的に理解する。

ストレス理論等、メンタルヘルスに関連する諸理論についての知識を得る。

精神保健に関連する法規や施設について理解を深める。

授業で学んだ内容について、問題意識や自分なりの意見を持ち、表現する。

内容	
1	受講ガイダンス、精神保健とは (今井、谷口)
2	精神保健の対象、歴史、現状 (今井)
3	胎児期、乳幼児期の発達と精神保健 (谷口)
4	幼児期、学童期の発達と精神保健 (谷口)
5	思春期の発達と精神保健 (谷口)
6	学校と家庭・地域・関係機関との連携 (谷口)
7	青年期における精神保健 (今井)
8	成人期における精神保健 (今井)
9	老年期における精神保健 (今井)
10	代表的な精神障害及び発達障害 (今井)
11	代表的な精神障害及び発達障害 (今井)
12	代表的な精神障害及び発達障害 (今井)
13	代表的な精神障害及び発達障害 (谷口)
14	代表的な精神障害及び発達障害 (今井)
15	精神保健における個別課題への取り組み・まとめ (今井)

評価

授業への参加度 (平常点・授業態度) 25%、学修目標に関する試験 (100点満点) 50%、レポート25%、により評価を行い、60%以上を合格とします。私語を慎み、授業に臨むことを期待します。

授業外学習

【事前予習】授業内容や配布資料を振り返っておくこと。

【事後学修】理解を深めるため、わからなかった点があったか授業内容を整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦書】講義時に提示します。

【参考図書】講義時に提示します。

科目名	幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格 :

本科目は、これまで学んできた発達心理学や教育心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。

2. 科目の目標 :

乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。

3. 学修目標 :

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
- (3) 発達の支援に関する理解。

内容

1. オリエンテーション
2. 発達とは 発達の課題とは
3. 発達の基礎理論
4. 胎生期～周産期の心理臨床
5. 新生児期の心理臨床
6. 乳児期の心理臨床 (1)
7. 乳児期の心理臨床 (2)
8. 幼児期の心理臨床 (1)
9. 幼児期の心理臨床 (2)
10. 幼児期の心理臨床 (3)
11. グループ発表
12. グループ発表
13. グループ発表
14. 発達の支援
15. まとめ

評価

授業への参加度 (課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが60点に満たない場合は、不合格とします。

授業外学習

【事前予習】講義予定の該当資料を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

初回授業時に指示します。

科目名	児童期の心理臨床		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童期の心理学と関わりが深く、児童期における精神面の発達上の問題 (問題行動や不適応、精神的疾患など) について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援方法などを深める性格をもつ科目である。

科目の概要

この科目は、児童期において、主に心理的な要因によって問題行動や症状を出している子どもやその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者が関わりを重視しつつ行う支援活動を学ぶ。

学修目標

幼児期から思春期が始まるまでの子どもたちが直面するさまざまな心理的問題の理解とその対応について、たとえば、発達障害やいじめ問題、不登校等の問題について、児童期における事例を通してその知識と理解を深める。したがって、日頃から新聞やニュース等で関連のある出来事について意識しておくことが望ましい。

内容

1	はじめに (児童期における問題行動と種類、行動問題の規定要因)
2	問題と症状からみた子ども理解 (病因論を中心とした問題の理解) (1)
3	問題と症状からみた子ども理解 (D S M を中心にみた子どもの問題) (2)
4	児童期におけるいじめ問題 (いじめの概要、いじめに関する研究)
5	わが国の心理臨床における子どもの問題の特徴
6	子どもとストレス (事例からの考察、生徒指導上の諸問題、不登校)
7	不登校 (引きこもり) 問題とその対応 (専門機関との連携、ペアレントトレーニング等)
8	児童期における心理的問題に対する方法 (聞き取りの仕方、面接方法等)
9	子どもの心理的問題に対するセラピー (遊戯療法及び箱庭療法)
10	心理的問題を抱える児童への実践的対応 (認知行動療法、S S T、心理教育)
11	子どものセラピーにおける基本的課題 (支援モデル、基本的態度と姿勢)
12	子どものセラピーにおける基本的課題 (初回面接における課題)
13	子どものセラピーにおける基本的課題 (セラピー過程における課題)
14	心理的問題を抱える子どもの事例考察
15	まとめ

評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題 (30%)、筆記試験 (70%)、2 / 3 以上の出席を必須とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間程度は、使用するテキストをきちんと読んでおくこと。

【事後学修】1時間以上は、毎回授業で活用するノートを整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用教科書：「子どもの心理臨床（著者 永井徹）」金子書房

推薦書：「スクールカウンセリングマニュアル（著者 秋山千枝子）」日本小児医事出版社

参考図書：教室で紹介する

科目名	青年期の心理臨床		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目である。1年次に必修科目となっている「臨床心理学概論」や「発達心理学概論」、生涯発達領域の「青年期の心理学」などとも関連が強い。特に「心理検査法応用」に必要な基礎的な心理学的理論をここで学習する

科目の概要

青年期とはいかなる時期であり、その時期に生じやすいところの問題がいかなるものであり、そしてそのような心理的問題に対していかなる対応がなされるのかについて、理解を深める。特に具体的な事例を取り上げながら、学習を行うことで、心理学的な問題理解の基本を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 心の問題の知識及び対応方法を学ぶ。

内容

1	Introduction
2	発達 乳児期 基本的信頼とは
3	発達 母親の心理学
4	発達 幼児期 しつけと自立
5	発達 前思春期 ころろがはぐくまれる時期
6	発達 思春期と青年期 性と親離れ
7	病態水準論
8	精神病のこころとそのケア
9	パーソナリティ障害のこころとそのケア
10	パーソナリティ障害のこころとそのケア
11	発達障害のこころとそのケア
12	神経症のこころとそのケア
13	ケアとは何か 覆いをつくること、覆いをとること
14	青年期の心理臨床
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし

【推薦書】 適宜指示する

【参考図書】 適宜指示する

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、前期開講の心理学科必修科目「中高年期の心理学」で得た現実認識を前提に、今、実際に生きている人々の語りを手掛かりとして、中高年期の心理へのより深い理解を目指し、開講する。

2. 科目の概要

世界中で起きているさまざまな現実のひずみに関し、人は、自らの心の平穏を保つために「あえて見ないようにする」ことがある。また、仮に自分の目に入っても、自分の耳に聴こえてきても、「他者がそのような状況にあるのは分かったけれど、自分は体験したことがないので、リアルに感じられないから」と理由をつけ、気にかけてない・働きかけてない・自分に出来ることをしないとといったことをする場合がある。本科目は、このような現実認識を前提に、中高年期の諸課題を、他者の「語り」を通して、実感的に理解を進める方途とスキルの獲得を目的とする。

3. 学修目標

本科目は、「体験してないから分からない」という論理の中にいる自分に気づき、その上で、世界中の中高年の現実に対し、一人の市民として、自らが貢献し得る知識と技術とは何かを考え、その習得を目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

1	講義の進め方と成績評価方法の説明と、次回までの課題を提示
2	「最先端の科学技術と更新されにくい倫理観と自分」：晩婚化する中年期女性の新たな苦悩
3	「母親としての中高年期と自分」：出生前診断の発達と障害を持つ子の親になること
4	「ボランティアな他者への慈しみと自分」：家族を守る役割と中年期女性(骨髄バンクの現実)
5	「出産することと自分」：新生児医療と初産女性が直面しやすい現実(パルモア病院の取組み)
6	「障害を持った子どもは、とりわけ育児が難しいのか?」：ダウン症児への育児的関わり
7	「セクシャルマイノリティと自分」：文化再生産の担い手としての中高年期と少数派差別
8	「文明と自分(自分が幸せなのは文明的だからなのか?)」：ヤノマミ族の生活と幸せの条件
9	「養子縁組で親子関係を創ることと自分」：養子を迎えるまでの中年期夫婦の日々
10	「老親介護で自分は何を重視するのか?」：中年期の実親への介護と、外国人労働者の上昇志向
11	「人間の命の重さと商業主義と自分」：H I V コピー薬と特許保護を主張する企業の論理
12	「「エコな生活を志向する自分と世界」：洗剤原料生産のプランテーション農業と日常生活
13	「無縁社会と自分」：無縁死・孤独死していく高齢者と他者との繋がり
14	「生涯未婚と自分」：血縁・地縁・婚姻縁に頼った繋がり方を越えた高齢期の新たな関係観

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『毎回の小レポートの内容』を指す。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(ペアワークへの取り組みと毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート』が30点、の構成にて配点し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学習】毎講義内に提示する題材について教員が示した論点から題材を振り返る課題を課します。振り返りの結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、主要な評定材料とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2007年11月号(特集:食べもの人間)」

「Days Japan 2007年3月号(特集:写真版 世界がもし100人の村だったら)」

「Days Japan 2006年12月号(特集:最底辺の子どもたち)」

「Days Japan 2006年2月号(特集:貧困)」

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	加藤 陽子、綿井 雅康、伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 :

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要 :

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標 (= 到達目標) :

- 1 . 障害の理解。
- 2 . 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
- 3 . 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉^s外^s症児・者の心理学的特徴と支援 (1)
- 4 自閉^s外^s症児・者の心理学的特徴と支援 (2)
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表 (1)
- 13 グループ発表 (2)
- 14 グループ発表 (3)
- 15 まとめ

評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書あるいはプリントの該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	障害者の発達支援		
担当教員名	新井 豊吉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は卒業後さまざまな障害をもつ児童・生徒又は成人された方々と関わる仕事に就こうとする学生のための科目です。また自分自身や家族についての性格や特性について学ぶことも大切にしています。

科目の概要

担当教員は現職の特別支援学校の教員であり小学部から高等部までの担任を経験しています。障害に関する特性理解や指導理論と支援方法を実際の授業のビデオや教材に触れることを通して学びあっていきます。特別支援学校及び成人施設での実習や見学も実施します。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 障害のステレオタイプな理解にとどまらず特別な支援を必要とするひとり一人への理解と具体的な支援方法を知る。
- ・ 授業では活発な意見交換をし自分はどのような人間であり、現在又は卒業後にどのような関わりができるのかなど自己理解を深めることを目標とする。

内容	
1	特別支援学校の現状と課題
2	障害とはなにか？
3	障害児に対する体罰の実態と課題
4	発達障害について
5	成人した発達障害者から学ぶ
6	自閉症児の学習スタイルの理解 (疑似体験を含む)
7	指導方法の実際 (構造化を考える)
8	指導方法の実際 (コミュニケーション支援)
9	事例検討会を学ぶ (学生からの事例をもとに)
10	ソーシャルスキルトレーニングについて
11	特別支援学校での実習
12	特別支援学校での実習
13	障害者施設見学
14	障害者施設見学 (職員との意見交換を含む)
15	まとめ

評価

小レポート30点、口頭発表20点、学修目標に関するレポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の身近にいた障害をもつ人たちのことを思い出し整理しておいてください。

【事後学修】授業で感じたことを次の授業の時に報告し教員とまとめをします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	心理療法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

学科専門科目の心理臨床科目の科目で、臨床心理学の基礎を既に学んだ者を対象とする。

心理臨床にたにたずさわる者として、理解しておくことが望まれる理論がいくつかある。そこで、本科目ではそれらのうち代表的な理論をいくつか取り上げ、基礎知識を習得することをねらいとする。

【科目の概要】

心理療法の歴史をひもとき、どのようにして現在のような心理療法が誕生してきたかを探る。また、それぞれの心理療法の特徴について紹介する。

【学修目標】

心理療法の主たる理論について理解する。心理臨床に関する各理論について学びを深め、日常生活の中でカウンセリング・マインドの実践ができるようになることを目標とする。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	はじめに～心理療法の歴史
2	ロジャース派
3	精神分析 フロイトとその後継者たち
4	ユング派
5	行動療法
6	家族療法学派
7	遊戯療法
8	箱庭療法
9	認知療法
10	認知行動療法
11	催眠療法、自律訓練法
12	アドラー心理学
13	ゲシュタルト療法
14	内観療法
15	ブリーフ・セラピー

評価

授業中の参加態度や提出物35%、発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

授業外学習

【事前予習】事前に該当する心理療法について調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館 2003

【参考書】乾吉佑他編『心理療法ハンドブック』創元社 2005

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	伊藤 恵子、綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを実習を通して具体的に理解する科目です。

科目の概要

いくつかの臨床現場（医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や機関、社会福祉関連の施設や機関）に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがいます。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行います。

学修目標

知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているか、現場で「心理学を活かすこと」にどんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深めます。さらに、受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化することを目指します。

内容

1. 現場（医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定）への見学等が学習活動に含まれます。
2. 現場見学にあたっては、事前のガイダンスを実施します、事後のまとめを実施します、見学にかかる経費（交通費など）は受講生の自己負担となります。
3. 見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります（例えば集中講義期間、春期休業期間）。
4. 現場見学を行うために、受講生の人数（上限）を設定します。
5. 見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

評価

見学ごとのレポート（100点）にて評価します。

授業外学習

- 【事前予習】見学予定の施設に関して事前に十分学習し、見学の視点を明確にしておいてください。
- 【事後学修】各施設の見学で学んだことを整理し、最終的にレポートを作成してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】事前ガイダンスにて、お伝えします。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること
- 【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	加藤 陽子、石田 有理、伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること
- 【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】出題された課題を十分な時間をかけて準備すること

【事後学修】他者の発表から何を理解したのかを、言語化して説明できるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通して、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめる。

学修目標

- ・英語文献を効率的に読むことができる
- ・英語文献の要点を読みとることができる
- ・英語文献の内容を理解しまとめることができる
- ・英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子を知る

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

評価

毎回の小レポート50点、期末テスト50点。合格点60点。

授業外学習

- 【事前予習】当該箇所を事前に読んで訳してくること
- 【事後学修】授業内で読んだ箇所と自分の訳とを照らし合わせて復習すること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指定する。M.Cole「the development of children」, 「Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology」などから抜粋して読む予定。

科目名	心理学方法論		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、いくつか確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究（主に卒業研究）を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

予定する講義内容は以下の通りである（キーワードのみ示す）；

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心の働きを測る：名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度
3. 三つの研究方法：量と質の話．調査・質問紙法，実験，そして観察
4. 調査・質問紙法その1：相関仮説と構成概念．測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成．縦断研究と横断研究．妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法．「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念．行動指標と生理指標
8. 実験法その2：実験計画．統制条件．1要因と2要因．参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法．下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法．観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究，実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法，実験，観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える．自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. まとめと総括：果たして心は測れるのか？

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2) 理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理学方法論		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、いくつか確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究（主に卒業研究）を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得るために、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

予定する講義内容は以下の通りである（キーワードのみ示す）；

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心の働きを測る：名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度
3. 三つの研究方法：量と質の話．調査・質問紙法，実験，そして観察
4. 調査・質問紙法その1：相関仮説と構成概念．測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成．縦断研究と横断研究．妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法．「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念．行動指標と生理指標
8. 実験法その2：実験計画．統制条件．1要因と2要因．参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法．下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法．観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究，実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法，実験，観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える．自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. まとめと総括：果たして心は測れるのか？

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2) 理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	綿井 雅康、山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。

取り上げる予定の検査は、以下の通りである。

 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80点と平常点 20点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直すしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	石田 有理、加藤 陽子、伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80点と平常点 20点として、総合評価60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直すしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	柏葉 修治、加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80点と平常点 20点により、総合評価60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

授業外学習

【事前予習】 予め配布されたプリントに目を通しておくこと

【事後学修】 各時間に何を体験し何を理解し学習したのかまとめ直すしておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識がもためられるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約(平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計(単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定(2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定(t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析(因子分析)

評価

期末レポート50点, 中間テスト30点, 授業内の課題10点, 平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ予習をしてくる。

【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識が求められるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ予習をしてくる。

【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理実験に関わる一通りの過程を実習する。

すなわち、(1)仮説をたて、(2)実験を計画し、(3)データを取り、(4)データを解析し、(5)報告書にまとめ、(6)口頭でも報告する。

これらは卒業研究の作成に必要な基礎知識でもある。

各自が卒業研究のテーマを見つけるきっかけにしたい。

科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて、データを取り、統計解析して、結果をレポートにまとめる。

学修目標

目標とするのは、(1)心理学的な問題設定の能力、(2)素データを見抜く眼力、(3)統計手法を用いたデータの吟味、そして(4)文章作成能力の涵養である。

これらを通じて人間の心の不思議な働きや、心理学実験の面白さを実感する。

内容

本演習では、自らが実験者および実験参加者となり、体験を通して、人間の情報処理のメカニズムを考えます。

受講者および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更になることがあります。

- 0 1 . 心理学実験について ガイダンス
- 0 2 . 視知覚に関する実験：解説
- 0 3 . 視知覚に関する実験：測定
- 0 4 . 視知覚に関する実験：解析
- 0 5 . 注意に関する実験：解説
- 0 6 . 注意に関する実験：測定
- 0 7 . 注意に関する実験：解析
- 0 8 . 視知覚と注意に関する実験のまとめ (グループでの発表)
- 0 9 . デザインと印象評定：解説
- 1 0 . デザインと印象評定：測定
- 1 1 . デザインと印象評定：解析
- 1 2 . 記憶に関する実験：解説
- 1 3 . 記憶に関する実験：測定
- 1 4 . 記憶に関する実験：解析

15. 印象評定と記憶に関する実験のまとめ（グループでの発表）

評価

授業時の小課題30点、レポート課題50点、口頭発表20点の計100点で評価する。

授業外学習

【事前予習】前回実習での要点を復習し、続く実習での展開に備える

【事後学修】進度に応じた課題を出すので、自らの力で取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目。

心理学研究法のひとつに「実験」がある。その実験を作成する技法をいくつか（パワーポイント、Visual Basicなど）を学ぶ。単に技法を習得するだけでなく、実験の刺激や課題の作成を通して、「実験デザイン」を理解すると同時に、研究を「論理的に組み立てる」力を身につけてほしい。

科目の概要

- 1) 自ら実験参加者となって、さまざまな心理学実験（コンピュータ制御による実験）を体験する。
- 2) 実験デザイン（刺激や課題の設定、データの収集法など）について学ぶ。
- 3) 自ら作成した実験を用いて、データの収集、解析（SPSS）、考察を行う。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 「心理学実験」そのものに慣れ親しむ
- 2) 「ものごとを論理的に考える・組み立てる力」を身につける
- 3) 「心理学的な視点（問題・仮説を設定する力）」を身につける
- 4) 「実験をデザインする力（科学的に検証する力）」を身につける

内容

授業は、ひとつの実験テーマにつき、3つのステップ（「実験に参加する」「実験を作成する」「結果を分析する」）で進める。

実験の作成では、コンピュータの基本的な操作から、実験プログラムの作成まで、順を追って、技法を丁寧に習得する。受講者自らも実験参加者となり、体験をしながら、実験研究のあり方を実践的に学ぶ。

受講者数および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更することがある。

評価

基礎課題の提出30点、応用課題の提出30点、実験レポート（発表含む）提出を40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】習得した「技法」を用いて課題を作成する

【事後学修】新たな「技法」を用いて課題を作成する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理実験に関わる一通りの過程を実習する。

すなわち、(1)仮説をたて、(2)実験を計画し、(3)データを取り、(4)データを解析し、(5)報告書にまとめ、(6)口頭でも報告する。

これらは卒業研究の作成に必要な基礎知識でもある。

各自が卒業研究のテーマを見つけるきっかけにしたい。

科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて、データを取り、統計解析して、結果をレポートにまとめる。

学修目標

目標とするのは、(1)心理学的な問題設定の能力、(2)素データを見抜く眼力、(3)統計手法を用いたデータの吟味、そして(4)文章作成能力の涵養である。

これらを通じて人間の心の不思議な働きや、心理学実験の面白さを実感する。

内容

本演習では、自らが実験者および実験参加者となり、体験を通して、人間の情報処理のメカニズムを考えます。

受講者および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更になることがあります。

- 0 1 . 心理学実験について ガイダンス
- 0 2 . 視知覚に関する実験：解説
- 0 3 . 視知覚に関する実験：測定
- 0 4 . 視知覚に関する実験：解析
- 0 5 . 注意に関する実験：解説
- 0 6 . 注意に関する実験：測定
- 0 7 . 注意に関する実験：解析
- 0 8 . 視知覚と注意に関する実験のまとめ (グループでの発表)
- 0 9 . デザインと印象評定：解説
- 1 0 . デザインと印象評定：測定
- 1 1 . デザインと印象評定：解析
- 1 2 . 記憶に関する実験：解説
- 1 3 . 記憶に関する実験：測定
- 1 4 . 記憶に関する実験：解析

15. 印象評定と記憶に関する実験のまとめ（グループでの発表）

評価

授業時の小課題30点、レポート課題50点、口頭発表20点の計100点で評価する。

授業外学習

【事前予習】前回実習での要点を復習し、続く実習での展開に備える

【事後学修】進度に応じた課題を出すので、自らの力で取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目。

心理学研究法のひとつに「実験」がある。その実験を作成する技法をいくつか (パワーポイント、Visual Basic など) を学ぶ。単に技法を習得するだけでなく、実験の刺激や課題の作成を通して、「実験デザイン」を理解すると同時に、研究を「論理的に組み立てる」力を身につけてほしい。

科目の概要

- 1) 自ら実験参加者となって、さまざまな心理学実験 (コンピュータ制御による実験) を体験する。
- 2) 実験デザイン (刺激や課題の設定、データの収集法など) について学ぶ。
- 3) 自ら作成した実験を用いて、データの収集、解析 (SPSS)、考察を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 「心理学実験」そのものに慣れ親しむ
- 2) 「ものごとを論理的に考える・組み立てる力」を身につける
- 3) 「心理学的な視点 (問題・仮説を設定する力) 」を身につける
- 4) 「実験をデザインする力 (科学的に検証する力) 」を身につける

内容

授業は、ひとつの実験テーマにつき、3つのステップ (「実験に参加する」「実験を作成する」「結果を分析する」) で進める。

実験の作成では、コンピュータの基本的な操作から、実験プログラムの作成まで、順を追って、技法を丁寧に習得する。受講者自らも実験参加者となり、体験しながら、実験研究のあり方を実践的に学ぶ。

受講者数および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更することがある。

評価

基礎課題の提出30点、応用課題の提出30点、実験レポート (発表含む) 提出を40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】習得した「技法」を用いて課題を作成する

【事後学修】新たな「技法」を用いて課題を作成する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	社会調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習は、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を利用するため、受験者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は、初回の授業で選考を行なうので、必ず出席すること。

内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行なう。実習は、調査テーマに関わる心理特性を測定する心理尺度項目を作成する調査を行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、授業内で調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 心理尺度項目の校正
14. 仮説の検討例 (相関分析、 χ^2 検定など)
15. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してくること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	社会調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習は、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を利用するため、受験者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は、初回の授業で選考を行なうので、必ず出席すること。

内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行なう。実習は、調査テーマに関わる心理特性を測定する心理尺度項目を作成する調査を行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、授業内で調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 心理尺度項目の校正
14. 仮説の検討例 (相関分析、 χ^2 検定など)
15. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してこること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

科目名	心理検査法応用		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理検査基礎実習」の応用となる科目である。「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容	
1	イントロダクション 心理学すること
2	主訴と生育歴
3	主訴と生育歴
4	バウムテスト再考
5	スクイグルゲーム 関係すること
6	スクイグルゲーム 遊ぶこと
7	風景構成法入門
8	箱庭療法 概論
9	箱庭療法 ビデオを見る
10	言語連想実験
11	言語連想実験
12	ロールシャッハテスト 体験
13	ロールシャッハテスト 解釈
14	事例研究
15	まとめ 見立てとは

評価

学期中に5種類の心理検査についてのレポートを提出してもらう。すべて提出したうえで、ひとつにつき最高20点で採点を行い、総合評価60点以上を合格とする。なお、欠席した授業についてのレポート提出は認めない

授業外学習

【事前予習】指定した領域についての心理学文献をひとつ以上読んでくること

【事後学修】行った心理検査について文献を調べると同時に、検査結果についてレポートをまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】適宜支持する

【参考図書】皆藤章編 臨床心理査定技法 臨床心理学全書7 誠信書房

科目名	行動観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察法の種類とそれぞれの技法について説明できる
- ・観察法の各技法を用いて行動観察ができる
- ・グループでの観察を計画し、結果の報告ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%)。合格点は100点換算で60点。

授業外学習

- 【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておく
- 【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告 (レポート) をまとめる

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[推薦書] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	行動観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察法の種類とそれぞれの技法について説明できる
- ・観察法の各技法を用いて行動観察ができる
- ・グループでの観察を計画し、結果の報告ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%)。合格点は100点換算で60点。

授業外学習

- 【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておく
- 【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告 (レポート) をまとめる

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[推薦書] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	カウンセリング技法入門		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「臨床心理学概論」を基礎としたうえで、「カウンセリング基礎 」、「カウンセリング基礎 」、の応用科目である。

科目の概要

実践的な演習を通して、カウンセリングの技法を習得することをねらいとしている。DVDによる映像教材及びロールプレイを行うことで、カウンセリング技法を復習する。その後、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウンセリングを行う。録画したDVDと発話を逐語録にしたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。したがって、授業時間外に2, 3時間の事前学習が必須である。

学修目標 (= 到達目標)

- ・カウンセリングの疑似的体験を通して、カウンセリング技法の理解を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウンセリング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

内容

1. イントロダクション 授業の説明
2. カウンセリング技法 - 聴く
3. カウンセリング技法 - 訊く
4. カウンセリング技法 - 考える
5. カウンセリング技法 - まとめ
6. 試行カウンセリングの実践と討議
7. 試行カウンセリングの実践と討議
8. 試行カウンセリングの実践と討議
9. 試行カウンセリングの実践と討議
10. 試行カウンセリングの実践と討議
11. 試行カウンセリングの実践と討議
12. 試行カウンセリングの実践と討議
13. 試行カウンセリングの実践と討議
14. 試行カウンセリングの実践と討議
15. まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、提出物40点と期末レポート40点で総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】試行カウンセリングを実施し、逐語録を作成する。

【事後学修】試行カウンセリングの討議をもとに、振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない

【参考図書】授業で適宜紹介する

科目名	発達・教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：発達心理学科の研究法・実習領域の科目である。事例やロールプレイングを通して、実際の教育相談や発達相談の具体的な手順や対応方法について学ぶ。

科目の概要：不登校やいじめなど問題を抱える子どもたちへの対応方法について、ロールプレイングなどを通して理解する。また、発達・教育相談の技法を習得するのみならず相談担当者としての資質も含めて総合的に学習する。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れたいと考えている。

学修目標：発達・教育相談に関する基本的な知識を身につけ、卒業後、発達・教育相談に実際に携わるものとしての基本的な姿勢を身につける。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 あらかじめ、学科専門科目の「教育相談」を受講しておくことが望ましい。(履修していなくても受講は可能) 本講義は、ロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	エンカウンターグループ
3	面接練習基礎
4	面接練習実践 子ども編
5	面接練習実践 子ども編
6	面接練習実践 子ども編
7	面接練習実践 子ども編
8	子どもの遊びを体験する
9	教育現場で用いる芸術療法
10	教育相談室の構造を学ぶ
11	面接練習実践 親編
12	面接練習実践 親編
13	面接練習実践 教師編
14	面接練習実践 緊急対応・地域連携編
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかつ

た場合、レポートを課す。

授業外学習

【事前予習】事前に内容に即した事例や資料を調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者(または担当者)から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識/態度/技能を活用できるようにしておく

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的/表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援 Q & A 70』 明治図書

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	松永 修一、小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である（「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は原則として本講義を履修すること。

科目の概要

企業が求めている人材像（ビジネスマナー、社会人としての基本動作他）インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識にはインターンシップの内容、インターンシップを受ける際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一貫とし、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職には必ずしも直結しないがインターンシップを経験することで積極的な就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス（講義の進め方の説明、注意事項など）
2	きぎょぶとはなにか、企業が期待する女性社員像
3	企業のインターンシップについて（インターンシップに参加した先輩の報告）
4	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 1
5	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 2
6	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 3
7	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 4
8	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 5
9	自治体のインターンシップの内容紹介 1
10	ビジネスマナー講座 1
11	ビジネスマナー講座 2
12	ビジネスマナー講座 3
13	ビジネスマナー講座 4
14	インターンシップの応募手続き方法（学内・学外）
15	まとめ

評価

授業への参加姿勢（40%）、適宜行うテストの結果（30%）、最終テストの評価（30%）

授業外学習

【事前予習】各回の発表企業、自治体名を事前に通知するので、その会社、団体を事前に調査しておく。

【事後学修】当日発表した企業、団体と同じ業界の関連事項及びインターンシップ等の調査

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、掲示する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション (要請承諾・説得)
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である。

科目の概要

対人社会心理学とはなにか (講義1)

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展 (講義2,3,4,5)

他者とのコミュニケーション (講義6,7,8,9,10)

他者への行動 (講義11,12,13,14)

学修目標 (= 到達目標)

人間関係についての心理学的な知識を身につけ、更にその知識を現実場面で応用できるようにすることを学修目標とする。

- ・親密な他者の関係を客観的に見られるようにする。
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につけ、その知識に基づく行動を現実場面でとれるようにする。
- ・攻撃や排斥のような他者を傷つける行動と援助やサポートのような他者を助ける行動に影響する要因を理解する。

内容

1	対人社会心理学とは何か
2	親密な関係の構造
3	親密な関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊と喪失
6	自己開示と自己呈示
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：自分を主張する
9	要請承諾
10	説得
11	攻撃
12	排除
13	援助
14	サポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題 (30%)、試験 (70%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

ただし1/3以上の欠席は単位不認定とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱うテーマについて、興味のある点を見つけ出す。

【事後学修】レジユメを読み返し、学習内容を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する

【参考図書】セレクション社会心理学 サイエンス社

科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人社会心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容	
1	ガイダンス
2	対人魅力とは何か
3	好意をいかにして測るか
4	好まれる性格
5	外見の美しさの効果
6	美しさの判断
7	自分と似ていることの効果
8	環境条件と魅力
9	相手から好かれることの効果
10	個人の内的状況
11	自己開示と好意
12	対人魅力と対人関係
13	対人関係の親密化
14	対人関係の進展・崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題 (簡単な実験実施によるデータ収集) 20点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に達しない場合再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて自分で調べて予習してくる

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	産業・組織心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

産業・組織心理学とは、産業活動に取り組む人や組織で働くことに関する心理学の分野である。具体的には、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、リーダーシップ、職場のストレスなどが対象になる。本科目では、動機づけのメカニズム、パーソナリティに関する理論、組織における人間の行動を明らかにしてきた社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象を明かにすることを目的とする。講義の中で学んだ理論が知識として蓄積されるだけでなく、現実の生活で活用していけるよう、実践的なワークやトピックなどを取り入れる予定である。

内容	
1	産業・組織心理学とは何か？ - ガイダンス -
2	産業・組織心理学の発展
3	仕事への動機づけ研究の歴史
4	仕事への動機づけ 内容理論
5	仕事への動機づけ 過程理論
6	作業に関わる心理学
7	ヒューマンエラーと事故 (1)
8	ヒューマンエラーと事故 (2)
9	中間テスト
10	集団と組織 - 組織の中の個人
11	集団と組織 - 組織の中でのコミュニケーション
12	集団と組織 ? 集団浅慮
13	リーダーシップの変遷 特性アプローチ・行動アプローチ
14	リーダーシップの変遷 状況適合的アプローチ・変革型リーダーシップ
15	まとめ

評価

中間試験30点、期末試験70点によって評価を行い、60点以上を合格とする。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

授業外学習

【事前予習】産業組織心理学は応用領域の科目であるため、授業内で指示する社会心理学の基礎的な知識を予習しておくこと。

【事後学修】授業内で行なったワークを基に、就職した後に自他共に快適に働くために必要な事をまとめておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する

科目名	キャリア心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。発達心理学概論、青年期の心理学、社会心理学概論などを基礎とする応用科目である。職業興味や適性検査なども実施するため心理検査法とも関連する。

キャリアとは、強いていえば職業経歴という意味である。そこには、単純にどのような仕事の履歴を持っているかということだけでなく、ある仕事に就くまでに、そして仕事についてからの職業活動を通して、内面をどのように発達させてきたかという心理的な側面が多分に含まれている。キャリア心理学は、私たちがどうやって職業を選択しどうやって職業人となっていくのか、働くことの意味は何かといった問題を考える。本講ではキャリアに関わる心理学的知見についてわかりやすく解説するとともに、適性検査や自己分析など必要に応じて実践的な内容も取り入れながら授業を進めていく。

これまで学んできた心理学の知識をキャリアという領域にどのように応用可能かを考えながら、キャリア心理学について理解を深めることを目標とする。またそれだけでなく、就職を目前に控えた受講生にとって自身の職業選択や職業生活のイメージを具体化する契機となることもあわせて目標とする。

内容

- (1) キャリアとは何か
- (2) 職業選択と進路決定
- (3) キャリア発達の理論
- (4) 職業とアイデンティティ
- (5) ワーク・モチベーション
- (6) 現代の就職活動
- (7) キャリアと自己効力感
- (8) 職場におけるノンバーバル行動の重要性
- (9) 現代社会の職業問題
- (10) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題 (自己分析などの課題や心理検査への参加) 20点により評価を行い、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】 次の授業でとりあげる用語について調べて予習をする

【事後学修】 授業内容についてノートを整理し復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	消費行動の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人々は社会生活を維持するために、消費を行なっている。消費に関わる行動は、人々の日常生活に根づいているために、その行動の説明や予測については様々な研究者が関心を寄せてきた。消費行動は、人々が製品やサービスを取得し、消費し、処分する際に従事する諸活動と定義されており、様々な活動が含まれている。たとえば、なぜ人々はブランド物を選ぶのか、どのようにすれば購買や消費を促進できるのか、どのような広告が効果的かなどが消費行動の心理学で扱われてきたテーマである。本科目では、隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた消費行動研究を紹介することによって、消費行動を科学的に理解することを目的とする。

内容

1	消費行動とは何か? - ガイダンス -
2	消費行動のプロセス (ブランド選択の心理)
3	計画購買と非計画購買 (1)
4	計画購買と非計画購買 (2)
5	価格の知覚判断 (3)
6	価格の知覚判断 (4)
7	ライフスタイルの違いと消費行動
8	消費行動の背景にある価値観の捉え方
9	中間テスト
10	口コミと購買意思決定
11	インターネットを通じた消費者間コミュニケーション
12	消費者行動とマーケティング
13	消費行動と広告
14	消費行動と広告
15	まとめ

評価

試験70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

授業外学習

【事前予習】消費行動の心理学は応用領域の講義であるため、授業内で指示された心理学の内容について配布資料や図書などで調べてくること。

【事後学修】授業内で取り上げた内容について、実際に店舗やCM、広告等をよく観察し、どのように利用されているか、整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する

科目名	職場のメンタルヘルス		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会人のメンタルヘルスに関する内容であるため「健康心理学」や「産業・組織心理学」との関連が強い。また「臨床心理学概論」の内容をベースとしている

科目の概要

産業領域でのメンタルヘルスケアについて学習を行う。現代社会にあって労働とは何か、そもそも働くとはどういうことを踏まえながら、働くうえで人はいかに病み、そしていかにケアされるのかについて考えたい。受講生のうち、希望者は「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」を受検することができる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・現代社会における労働とは何かを学ぶ
- ・社会人が体験する病い、ストレス、及びストレス・マネジメントの重要性や方略を学ぶ。
- ・希望者は、メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格を目指す。

内容

1. イントロダクション 働くことと愛すること
2. 21世紀の働き方
3. 企業カルチャーの心理学
4. キャリア論 就職・転職・退職
5. メンタルヘルスケアの意義
6. ストレスおよびメンタルヘルスケアに関する基礎知識
7. セルフケアの重要性
8. ストレスへの気づき方
9. ストレスへの対処、軽減の方法
10. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
11. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
12. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
13. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
14. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
15. まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 その回の内容、および練習問題を満点とれるまで復習する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース」 中央経済社

推薦書 春日未歩子 「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース 過去問題集」 中央経済社

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理専門科目における選択必修のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

人間は五感を通して外界の情報を受け取り、その情報を脳で処理することにより、何らかの反応や行動に至っている。本講義では、その情報処理のプロセス (人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について心理学的なモデルや理論を平易に解説する。授業では映像や簡易実験などを用いて、体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指す。

学修目標 (= 到達目標)

評価基準となる学習到達目標は、

- 1) 認知心理学の基礎となるモデルや理論について、日常的な行動との対応を説明できるようになること
- 2) 実証的な認知心理学研究法を理解すること

学生は自身の卒業研究におけるデザイン (研究方法、実験計画) など意識しながら学んでほしい。

内容

- 1 ガイダンス
- 2 認知の神経的基盤
- 3 視覚の神経的基盤
- 4 視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
- 5 視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
- 6 認知心理学研究法
- 7 注意 - 選択的注意
- 8 注意 - 注意と記憶
- 9 記憶と学習 - 記憶の構造と理論
- 10 記憶と学習 - 記憶のプロセス
- 11 知識表現 - 意味ベースの知識表現
- 12 知識表現 - 知覚ベースの知識表現
- 13 思考と言語 - 演繹的推論
- 14 思考と言語 - 帰納的推論
- 15 まとめ

評価

中間試験 (2回、計50点)、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	性格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科における生活科目領域の科目です (他学科開放あり)。心理学を初めて学ぶ人を対象として、人を理解する方法として「性格」を学びます。

科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々に慣れ親しんでいます。しかし、正式な学問としての「性格心理学」からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか？」からスタートし、「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、「性格」を学術的に学びます。

学修目標 (= 到達目標)

本講義では、一般で得られる「性格」と、学問である「性格心理学」との差異を理解し、最終的には日常の言動を性格心理学の観点から説明できるようになることを目指します。

内容	
1	イントロダクション (講義内容の説明)
2	性格とは何か (いわゆる “ 性格 ” というものを考える)
3	性格と人格-1- (科学的な考え方を学ぶ)
4	性格と人格-2- (古代から現代までの理論から考える)
5	性格と人格-3- (代表的な性格理論を学ぶ)
6	性格の作られ方-1- (性格形成論を学ぶ・前編)
7	性格の作られ方-2- (性格形成論を学ぶ・中編)
8	性格の作られ方-3- (性格形成論を学ぶ・後編)
9	性格の影響-1- (自分と周囲の人たちとの関係を考える : 対人コミュニケーション方法)
10	性格の影響-2- (自分と周囲の人たちとの関係を考える : 適応と不適応)
11	性格と適正 (趣味・仕事と性格の関係を学ぶ)
12	性格と健康 (病気と性格の関係を学ぶ)
13	性格の異常 (問題行動と性格の関係を学ぶ)
14	性格の理解と修正 (みる・きく・はかる、心理検査法と心理療法のはなし)
15	総合まとめ

評価

平常点 (通常講義内に課されるレポート他) を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。

授業外学習

【事前準備】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認する。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井 豊 共著 『性格心理学への招待[改訂版]』2003 サイエンス社

【推薦書】清水弘司 著 『はじめてふれる性格心理学』1998 サイエンス社

【参考図書】講義中に適宜紹介します

科目名	食の心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格：発達相談において、子どもの食の問題を考えていくことが重要である。また、女性のカウンセリングにおいては、産む性を引き受けている女性の心理を食行動の面から理解することも重要である。それらに加えて、食を通じた人と人との関係の発展を理解していく。
2. 科目の概要：現代は文化や文明が発達し、その恩恵を受けて日常生活が展開されている。しかし、女性の生理学的な問題についての理解は十分なされないまま生活していることが多い。そのため、問題行動をすべて、メンタルな問題にしてしまうことがよくある。メンタルな問題の発生を日常の食行動に起源をもとめることができるかもしれない。このようにして、心理学を日常の生活や行動と結びつけてみる時、最も身近に取り上げられるのが、食事の問題である。この授業では、さまざまな観点から、食事と人びとの心の関係を探求していく。
3. 学修目標：自分の生理について理解し、食生活が健全に行われるようになること。また、産む性を引き受けていくための食生活についても理解すること。

内容

1. 基礎体温と食事について
2. 女性の生殖と飲食の関係
3. 飲食のメカニズム：空腹と満腹について
4. 心理テストにあらわれる基礎体温の影響
5. (1) バウム テスト
6. (2) P F スタディ
7. 味覚について
8. 咀嚼行動について
9. 食行動の発達について
10. 発達相談における食事の問題：食事を作る人と食べる人 (例：母と子) の関係を探る：ノート法の紹介
11. 事例研究：自我を育てる食事
12. 事例研究：思春期の食事
13. 共食の意味について
14. 社会や文化が人間の食事や健康意識に及ぼす影響：買って食べる文化は、何が問題なのか？
15. まとめ

評価

授業中の小レポートなど平常点 30 点, 期末のレポート 70 点で評価する。
合計で 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】婦人体温計による基礎体温の測定と食生活の記録

【事後学修】これらの記録を講義内容と照らし合わせて、小レポートを書く

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 使用しない、プリントを配布する

【推薦書】今田純男 食べることの心理学 有斐閣

A.W. ローグ 木村定訳 『食の心理学』 青土社 【所蔵無】

二木 武他編 『小児の発達栄養行動』 医歯薬出版 493.91/S

D. ラプトン 武藤隆他訳 『食べること社会学』 【所蔵無】

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学科の選択科目である。

心や意識，記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく，

身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって，からだ」なのである。

科目の概要

毎週1つのトピックについて，実習を交えながら講義を進める。

毎回，授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し，復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

身体と心，脳に関する話題を概観しながら，人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには，身体運動の基礎知識が不可欠である。

1)身体が動く仕組み（筋骨格系から脳までの機能と構造），2)運動制御と運動学習の仕組み，3)身体運動と心理学との関わりを学び，改めて人間を見直し，心の多様さについて考える。

内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが，昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り：

- 1.イントロダクション（心と身体と環境とは「くっついて」いる。心のくっつける働きと分ける働き）
- 2.骨の構造と筋肉の動き：筋肉のつき方，股関節の理解，二足歩行の進化学
- 3.力を発揮する仕組み：腕ずもう必勝法，外力と反射，腱
- 4.カロリーの出し入れと動的平衡：カロリーの摂取と消費。分子生物学からみた「生きる」こと
- 5.脳構造のイロハ：BrainVoyager Tutorを用いた脳構造の理解，脳の階層性，脳部位の概略，神経細胞
- 6.脳の処理過程を楊枝で実習する：ニューラルネットでおやつ代計算
- 7.脳の感覚運動系：運動野の階層，運動・感覚ホムンクルス
- 8.環境とやり取りする脳：遠心コピー（自分でくすぐってもくすぐたくないのはなぜ？）
- 9.気分・性格と運動：POMSで気分を測定，性格の特性論によるスポーツ参加者の分類，社会的学習理論
- 10.運動と動機づけ：外発的vs内発的動機づけ，帰属と再帰属訓練（やる気とその維持）
- 11.運動と記憶：記憶の分類，文脈干渉効果，記憶の定着過程（記憶が染み込むには時間がかかります）
- 12.運動学習入門：運動学習の過程（「わかる」と「できる」は違うのです），フィードバックと汎化
- 13.運動の発達：PHV年齢と最適な運動内容。幼児の運動能力と運動指導
- 14.ブランコ漕ぎの自由：振り子の等時性，ブランコは漕いでるようで漕がされている？
- 15.まとめ

今年度はスポーツ心理学の分野に関する講義を2回分、増やす予定である。

内容の詳細は現在作成中であるので、上の講義内容はあくまで「昨年実績」に過ぎない。

純粋な講義でなく、簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので、講義内容について積極的に考え、自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し、討議の材料にする。

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については、授業の中で随時紹介する

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持っています。しかし、「基礎心理学（学習理論）」を活用する点では他の応用心理学と変わりません。「臨床心理学」と同様の病を扱いながら違う手法を用いる点に注目してください。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれます。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴です。

学修目標：

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解する。
- 2) 上記1)を踏まえ、人の心身に隠れている素敵な部分を活かしてより良い存在へ成長させていく方法を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な難関・苦難をクリアできるようなポイントを見いだせる。

内容

講義は「健康心理学」という興味深い学問を初めて学ぶことになる皆さんに習得してもらうため、まず基礎的な考え方や理論を学んで貰います。その後、講義が深まるうちに「健康心理学」らしい非常に実践的な技法を学びます。

この内容は、学びが深まるにつれて理論と技術を一体に学ぶことができるようになっていきます。そんな風に講義が一連になっていますので、可能な限り全ての回に出席して下さい。

1	はじめに	ガイダンス
2	健康心理学の意義	「健康」と、それを「心理学」する意義を考える
3	健康心理学と臨床心理学	健康心理学を支える科学的な理論・技法と、臨床心理学の差異
4	健康心理学の各論	ストレスを科学する
5	健康心理学の各論	ストレスは、向き合えて、怖い存在ではなく対応できるもの
6	健康心理学の各論	人格（性格）の理解を深める
7	健康心理学の各論	人格（性格）と健康の関係を考える
8	病気を考える	生活習慣病（ライフスタイル）
9	病気を考える	心身症
10	病気を考える	こどもからおとなまで
11	健康を考える	予防と促進
12	健康を考える	心理教育の重要性
13	健康心理学の技法	心理アセスメント（人の健康を把握・理解する方法）
14	健康心理学の技法	心理的サポート（人の健康を支える・改善する方法）
15	まとめ	

評価

平常点(通常講義内に行われるレポート)を30点、筆記試験(期末試験)を70点、で60点以上が合格です。

授業外学習

- 【事前予習】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認しておく。
- 【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】 森 和代・石川利江・茂木俊彦 編『よくわかる健康心理学』2012 ミネルヴァ書房
- 【推薦書】 日本健康心理学会 編『健康心理学概論』2002 実務教育出版
- 【参考図書】 小林芳郎 編著『健康のための心理学』2006 保育出版社

科目名	創造性の心理学		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格： 2年次までに履修した心理学の専門科目を直接の基礎としているわけではないが、これまでに履修したさまざまな科目が陰に陽に関わってきて役立つであろう。また、この科目で学ぶ事柄は他のさまざまな科目の学習活動に必ずや役立つであろう。

科目の概要： 創造性に関する基本的事項についてしっかりと理解を図った上で、紙上エクササイズにおいて創造的思考の諸方略を実際に使用してみるにより、その方略の有効性をしっかりと知ると共に創造的思考力の向上を図ることを目的とする。

学修目標： まず創造性とは何か、問題発見の諸方法、創造的思考の過程についてしっかりと理解した上で、創造的思考の方略の使い方と有効性について紙上エクササイズを通じて体験的に学んでほしい。そのためには、授業に毎回出席し、紙上エクササイズの課題に真剣に取り組むことが大切である。

内容

1. 創造性とは (その意味と重要性、創造的思考力、創造的技能、創造的人格)
2. 問題発見の方法 (問題とは、問題発見の諸方略)
3. 創造的思考の過程 (ワラスの4段階説ほか)
4. 創造的思考の方略 ~ < 拡張 >
5. 創造的思考の方略 ~ < 焦点化 >
6. 創造的思考の方略 ~ < 観点変更 >
7. 創造的思考の方略 ~ < 逆発想 >
8. 創造的思考の方略 ~ < 分類・分解 >
9. 創造的思考の方略 ~ < 加減 >
10. 創造的思考の方略 ~ < 結合 >
11. 創造的思考の方略 ~ < 変換 >
12. 創造的思考の方略 ~ < 類推 >
13. 創造的思考の方略 ~ < 反復検討 >
14. 創造的思考の方略 ~ < 弁証法的解決 >
15. まとめ

上記の事項について、毎回、教科書を使って (別途、資料を配布することがある)、講義形式で授業を行う。授業中には関連事項について質問を發して、挙手の形で答えてもらうという質問応答形式を取り入れていく。ただし講義形式での授業に先立ち、10分間ほど「事前シート」に取り組み回答し、提出してもらう。講義形式での説明が済んだ後、30分間ほど「本課題シート」に取り組み解答し、同じく提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。思考力は、スポーツやお稽古事等と同様、単なる知識の習得だけでは身に付かず、実際に実行してみることが不可欠だからである。

なお、毎回、「本課題シート」と同様のもの (「ホームワーク・シート」) を配布するが、それを持ち帰って再度取り組み、より完全なものにして翌週提出してもらう。これも平常点の資料となる。

このようにして、創造的思考の方略について理解を深めるとともに、創造的思考力を紙上エクササイズによって体験的に

伸ばしていくことをねらっている。

評価

平常点つまり毎回の授業中の「本課題シート」と「ホームワーク・シート」の出来栄え(50点)、筆記試験(50点)。計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】可能なかぎり、前もって教科書を読んでおく(毎週10頁程度)。

【事後学修】毎回、授業の終了時に配布される「ホームワーク・シート」(授業で扱った内容の復習と補完をねらったもの)を完成させて、次の週に提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川? 成著 『クリエイティビティの心理学』 金子書房

【推薦書】高橋誠編著 『新編 創造力事典』 日科技連出版社

【参考図書】日本創造学会編 『「驚き」から「閃き」へ(創造性研究9)』 共立出版

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

期末試験：50点，授業内課題50点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布されたプリントをもとに出題された課題に取り組む

【事後学修】学習したことを、子ども理解、教育活動の理解と結びつけるように考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	生徒指導		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。

科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性が深まり、指導の組織と計画、生徒理解の方法、進路指導等についての実践力が身につく。そのためにも、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に積極的にかつ真剣に取り組むことが大切である。

内容

1	1.はじめに (生徒指導の意義と課題)
2	2 . 教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観
3	3 . 集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導
4	4 . 教育課程と生徒指導
5	5 . 児童生徒の心理と児童生徒理解
6	6 . 学校における生徒指導体制
7	7 . 生徒指導における教職員の役割、基本的な生活習慣の確立
8	8 . 児童生徒の安全に関わる問題
9	9 . 問題行動の早期発見と効果的な指導、発達に関する課題と対応、不登校生徒への対応方法
10	1 0 . 問題行動の対処や命の教育の実践方法 (とくにいじめ問題に対する取り組みの方法)
11	1 1 . 生徒指導に関する法制度等
12	1 2 . 地域社会における児童生徒
13	1 3 . 学校を中心とした過程・地域・関係機関等との連携
14	1 4 . 社会の形成者としての資質の涵養に向けて
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への取り組みに対する授業態度 (1 5 %)、レポート (1 5 %)、筆記試験 (7 0 %)、さらに2 / 3以上出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】基本的には使用テキストを活用した授業であるが、1時間以上はそのテキストを事前に読み込んでおくこと。

【事後学修】授業で扱った箇所を重点的に1時間以上は復習することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省

【推薦書】「現場で役立つ生徒指導実践プログラム」新井肇 編著 学事出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

発達心理学科の教育・保健領域の科目である。近年、学校現場で生じているさまざまな現象や発達と教育に関わる心理学的課題を抱える児童生徒に対して、教育相談に必要な基本的な知見を獲得する。また、実際どのように活動していくのかについて学ぶ。

教職過程科目の「教育相談」と同時開講とする。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】事前にキーワードを調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大芦 治「教育相談・学校精神保健の基礎知識 第2版」ナカニシヤ出版 2008

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

有村久春著「キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談」金子書房 2009

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	子どもの生活支援		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている。他学科開放科目としている。

科目の概要：

子どもとは、形態的にも機能的にも成長発達の途上にあり、すべてが未完成であり、未熟であり、内外的環境の影響を受けて成長発達していく。ここでは特に乳幼児期の子どもを中心に、健全な成長発達を促進するための基本的な生活援助の知識と技術を学習する。また、子どもの未熟性から生じる健康障害に対する看護についても学習する。さらに、子どもを取り巻く社会資源など社会とのかかわりについても学ぶ。

学修目標：

- 1．乳幼児の子どもの心身の成長発達が理解できる。
- 2．乳幼児期の子どもの日常生活での養護が理解できる。
- 3．病気の子どもの看護が理解できる。
- 4．乳幼児の安全管理と応急処置が理解できる。
- 5．子どもを取り巻く社会の現状について、説明できる。

内容

講義、養護の実技、グループワークとプレゼンテーションにより展開する。授業では実技実習もあるため、受講生が多数の場合は、受講人数を制限（上限64人）します。

1	子どもと成長発達
2	子どもの成長・発達（形態機能の発達）
3	子どもの成長・発達（生理機能の発達:呼吸・循環・体温・消化機能）
4	子どもの成長・発達（生理機能の発達:腎機能・内分泌機能・免疫）
5	子どもの成長・発達（脳神経・運動機能の発達）
6	乳児の生活と養護（抱っこ・授乳）
7	乳児の生活と養護（衣服着脱とおむつ交換）
8	乳児の生活と養護（沐浴）
9	乳児の生活と養護（沐浴）
10	乳幼児の病気と看護（小児感染症を中心に）
11	グループワークプレゼンテーション（子どもの発達としつけに関するテーマ）
12	グループワークプレゼンテーション（子どもの育児環境と親に関するテーマ）
13	グループワークプレゼンテーション（子どもを取り巻く社会問題に関するテーマ）
14	乳幼児の病気と看護（子どもによく見られる症状に対する看護）
15	乳幼児の安全管理と応急手当

評価

授業への参加状況（20%）、学生のプレゼンテーション（30%）、レポート（50%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】TVの育児支援番組（NHK）を見ておきましょう。

【事後学修】学びを基に、乳幼児を観察してみましよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大西文子編著 『子どもの保健演習』 中山書店

【推薦書】千羽喜代子、吉岡毅、長谷川浩道 『実習育児学』 日本小児医事出版

瀬江千史 改訂版 『育児の生理学 医学から説く科学的育児論』 現代社

日本外来小児科学会編著 『お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド』 医歯薬出版

科目名	養護概説		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校保健、 の学習を基礎として、養護教諭が行っている職務内容を理解し、養護教諭として諸活動を実践する能力を養うことを目指す。学修目標は 学校保健における養護教諭の職務を理解する。 養護教諭の活動に必要な実践力を身につける。

内容

1	学校教育・学校保健と関連法規について
2	養護教諭の歴史と職務内容の変遷について
3	養護教諭に関する法律・審議会答申について
4	養護教諭の職務について
5	健康診断の目的と計画立案について
6	健康診断の種類と測定方法について 1
7	健康診断の種類と測定方法について 2
8	健康診断の事後措置について
9	健康診断実施の工夫について
10	健康観察の目的・方法・事後措置について
11	健康観察の実際、実施の工夫について
12	子どもに多くみられる病気の理解と管理について
13	疾病の管理の実際について
14	養護教諭の行う健康相談について
15	まとめ

評価

筆記試験 (小テストを含む) 8割、通常の授業の提出物及び授業の参加態度を 2 割として評価し、60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

- 【事前予習】 毎回予習のための課題を出す。1 時間程度の予習が必要である。
- 【事後学修】 学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

新養護概説<第8版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社

科目名	学校保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

学修目標として、

学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。

学校保健における基礎的事項について理解する。

学校保健における養護教諭の役割を理解する。

以上3点をあげる。

内容	
1	学校教育と学校保健について
2	学校保健の意義と関連法規について
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者について
4	学校保健計画の法的根拠と意義、内容について
5	学校における保健教育について
6	保健指導の進め方について
7	健康相談の意義と進め方について
8	養護教諭が行う健康相談について
9	健康観察の意義と法的根拠について
10	健康観察の機会と方法について
11	健康診断の意義と法的根拠について
12	健康診断の種類と項目について
13	健康診断の計画と実施について
14	健康診断の事後措置について
15	まとめ

評価

筆記試験 (小テストを含む) 9割、通常の授業への参加度 1割により評価とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】 次回の内容について課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】 学修内容について1時間程度の復習 (まとめ) が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】養護教諭のための学校保健＜第13版＞ 出井美智子他 少年写真新聞社

【推薦書】授業中に適宜示す

科目名	健康相談活動		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

子どもの健康問題に関して、医学的な知識をもとに発達心理学で学んだ知識・技能も活用しながら心身の問題に対して、的確なアセスメントや対応ができるための知識と技能を学ぶ。

科目の概要

「学校保健」「養護概説」で学んだ健康相談に関する答申や法律、養護教諭の職務の特質、健康相談のプロセス等を再度確認する。その上で養護教諭として子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントの視点、対応方法を演習を取り入れながら学習する。さらに、学級担任や保護者との連携方法も演習を取り入れながら具体的に学習をする。

学修目標（＝到達目標）

健康相談の基本的なプロセスを理解し、各事例に応じて子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントができ、その対応方法を考えることができる。

内容	
1	健康相談の重要性と法的根拠
2	学校における健康相談の基本的理解
3	健康相談のプロセス
4	健康相談における養護教諭、学級担任、学校医等の役割
5	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 1
6	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 2
7	学校における健康相談の進め方と支援体制づくり
8	健康相談における基本的な技術及び留意点
9	不登校及び保健室登校への対応
10	カウンセリングの技法の理解
11	役割演技による相談の実際 1
12	役割演技による相談の実際 2
13	役割演技による相談の実際 3
14	役割演技による相談の実際 4
15	まとめ

評価

筆記試験6割、演習に対する取り組み態度を4割として総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試

験を実施する。

授業外学習

【事前予習】2年次までに取得している「養護概説」の健康相談に関する内容をまとめておくこと。

【事後学修】関連科目とのつながりも含めて、授業で学んだことをまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】[養護概説] 采女智津江他 少年写真新聞社

【参考図書】「教職員のために子どもの健康相談及び保健指導の手引」 文部科学省 平成23年

科目名	免疫学		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して学習の参考に供する。

学修目標 (= 到達目標)

免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理する。
2. 免疫とアレルギーの歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー型別について学ぶ。

内容

1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2	自然免疫システム
3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン / エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ。

評価

中間筆記テスト (40点)、期末筆記テスト (40点)、授業態度 (20点) によって評価を行い、総合評価60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。。

授業外学習

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。
【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント
解読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（2007）
【推薦書】扇元敬司 訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店（2008）
扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社（2012）
扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

科目名	衛生学		
担当教員名	佐藤 一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：主に感染症について講義する。感染症を防ぎ、健やかな日々を送るためには知識や経験に基づく適切な予防が重要である。特に、養護教員を目指す学生は、微生物学について幅広い知識を必要とする。そのため、感染症予防のため発生要因 (感染源、感染経路、感受性者)、病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症について講義する。これにより、感染症に対する予防などを行うための基礎的な知識を身につけることを目標とする。

内容	
1	感染症に関する基本的理解
2	感染症成立のための三要因
3	免疫
4	細菌1
5	細菌2
6	ウイルス
7	真菌
8	原虫
9	寄生虫
10	感染症の診断・治療・予防・防御
11	感染症各論1
12	感染症各論2
13	感染症各論3
14	感染症の疫学
15	まとめ

評価

評価：毎回実施する豆テスト30%、期末試験70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

授業外学習

事前学習：事前に当該単元や関連書籍を通読しておくことが望ましい。

事後学修：何を理解し、何が理解できなかったのか整理し、次回講義時に質問できるようにまとめる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】本田武司 (編) はじめの一步のイラスト感染症・微生物。羊土社。ISBN978-4-7581-2023-4。

【参考書】日本学校保健会 (編) 学校において予防すべき感染症の解説。丸善出版。ISBN978-4-903076-11-9。

阿部章夫 (著) もっとよくわかる！感染症 病原因子と発症のメカニズム。羊土社。ISBN978-4-7581-2202-3。

池内昌彦 他「エッセンシャルキャンベル生物学」丸善。ISBN: 978-4-621-08399-4。など。

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	松葉 剛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

公衆衛生学とは健康科学または医学の一分野を占める学問であり、健康または疾患と生活・環境要因との関連を解明し、健康増進、疾患の罹患予防に資する科学およびその実践活動である。

科目の概要

公衆衛生学を構成する分野は地域保健、産業保健、学校保健、母子保健、国際保健、環境保健、食品衛生、保健行政、人口学、疫学など多岐にわたっている。保健、医療、複視分野では必要不可欠な知識と技能である。将来、このような分野での就労を目指す者にとっては本講座は大変重要だと思われる。

学修目標 (= 到達目標)

本講座を通して個々が「公衆衛生マインド」を身に着けることを学修目標とする。そのためには以下の到達目標の達成が望まれる。

- 1) 地域保健、産業保健、学校保健、母子保健、国際保健の定義、概念、実践について理解し説明できる。
- 2) 環境保健、食品衛生、保健行政について定義、関連法規について理解し説明できる。
- 3) 人口学、疫学について基本的な研究手法について理解し説明できる

内容	
1	健康科学としての公衆衛生学
2	人口の動向
3	母子保健
4	学校保健
5	生活習慣病対策
6	高齢者保健
7	メンタルヘルス
8	環境衛生
9	感染症対策
10	食品衛生
11	産業保健
12	保健行政
13	疫学研究
14	国際保健
15	まとめ

評価

最終講義の際に筆記試験（80点満点）を実施し、講義への参加状況の評価（20点満点）を加え、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の関連分野に必ず目を通しておくこと。

【事後学修】講義で指摘したキーワードについてしっかり記憶する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学生のための現代公衆衛生学（改訂6版）南山堂

【推薦書】国民衛生の動向 厚生労働統計協会

【参考図書】保健衛生と健康スポーツ科学 篠原出版新社

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

学修目標：

1. 看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
2. 看護における観察の意味がわかる。
3. 日常生活において、人間のニーズ充足のための看護援助が理解できる。
4. 体調の不調を訴えた際の基本的な看護援助が説明できる。

内容

* 後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	疾病予防と看護
4	看護における観察
5	日常生活における看護 安楽と環境調整と睡眠・休息
6	日常生活における看護 栄養・食事と排泄
7	日常生活における看護 身体の清潔保持
8	看護学概論（総論）のまとめ
9	不調を訴えた人への看護 電法
10	不調を訴えた人への看護 発熱、痰・咳、呼吸困難のある人への看護
11	不調を訴えた人への看護 嘔気嘔吐、排便障害、脱水のある人への看護
12	不調を訴えた人への看護 浮腫、腫脹、褥瘡、発疹のある人への看護
13	不調を訴えた人への看護 めまい、疼痛のある人への看護
14	救急対応と看護
15	看護学概論（各論）のまとめ

評価

レポート（20点）、筆記試験（80点）により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に、各單元ごとに教科書を読んでおいて下さい。健康に関するTV番組を見るようにして下さい。

【事後学修】各單元ごとに教科書・配布資料をまとめたノート等を作って下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】萱場一則編著 『暮らしの看護』建帛社

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護が説明できる。
5. 一次救命処置について説明できる

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	看護過程とSOAP
3	バイタルサイン (呼吸・脈拍・血圧)
4	バイタルサイン (体温・意識)
5	バイタルサイン測定実習
6	フィジカルアセスメント (総論)
7	フィジカルアセスメントと看護 (各論: 頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔)
8	フィジカルアセスメントと看護 (各論: 胸部・腹部・四肢・脳神経)
9	感染防御 (基礎知識)
10	感染防御 (滅菌消毒方法)
11	感染防御 (汚染物の取り扱い)
12	多様な急性期の症状とアセスメント (頭痛・発熱)
13	多様な急性期の症状とアセスメント (腹痛・嘔気嘔吐)
14	一次救命処置の基礎知識
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

- 1．バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
- 2．フィジカルアセスメントが適切に行える。
- 3．感染防御の基礎について説明できる。
- 4．急性期の症状のある人の看護が説明できる。
- 5．一次救命処置について説明できる

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	看護過程とSOAP
3	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
4	バイタルサイン（体温・意識）
5	バイタルサイン測定実習
6	フィジカルアセスメント（総論）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
8	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
9	感染防御（基礎知識）
10	感染防御（滅菌消毒方法）
11	感染防御（汚染物の取り扱い）
12	多様な急性期の症状とアセスメント（頭痛・発熱）
13	多様な急性期の症状とアセスメント（腹痛・嘔気嘔吐）
14	一次救命処置の基礎知識
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護援助を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

学修目標：

1. 学校感染症の特徴と看護について説明できる。
2. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
3. 子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

内容

1	子どもの身体の解剖生理（筋骨格・目・耳・歯）
2	子どもの身体の解剖生理（内臓の生理機能）
3	子どもの健康状態の把握
4	学校感染症（第1種）
5	学校感染症（第2種）
6	学校感染症（第3種）
7	子どものアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）
8	子どものアレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）
9	子どもの腎疾患（糸球体腎炎・尿路感染症）
10	子どもの腎疾患（ネフローゼ症候群・尿検査）
11	子どもの心疾患（先天性心疾患）
12	子どもの心疾患（川崎病・不整脈と心電図）
13	子どもの糖尿病と肥満
14	子どもの脳神経系の疾患
15	小児保健看護学のまとめ

評価

3回の筆記試験により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】解剖生理学を復習し、単元ごとに教科書を読んでから授業に臨んで下さい。また授業の中で指定した資料については、各自でインストールし、印刷し持参すること。

【事後学修】配布資料と教科書等をまとめたノート作りをして下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著 『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』 東京書籍
「看護援助方法」で使用した教科書も使う

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K
満留昭久 『学校の先生にも知ってほしい慢性疾患の子どもの学校生活』 慶應義塾大学出版会

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂
坂井建雄・橋本尚詞 『ぜんぶわかる人体解剖図』 成美堂出版

科目名	救急処置活動		
担当教員名	齋藤 千景、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。養護教諭として適切な救急処置活動をするための知識と技術を学ぶ。基本的事項を学習したのち、児童生徒に多くみられる、内科的・外科的な疾患に対する救急処置の方法を学習する。心肺蘇生法や止血法・包帯法などの演習を行う。学修目標は 学校における救急処置の手順を理解する。 各症状における救急処置の判断と処置の方法を理解する。 救急処置の基本的技術を習得する。

内容	
1	学校で行う救急処置の基本的な考え方について【齋藤・鈴木】
2	救急処置の基本的な手順について1【齋藤・鈴木】
3	救急処置の基本的な手順について2【齋藤・鈴木】
4	学校で行う内科的症に対する救急処置について (発熱・頭痛・腹痛など)【齋藤・鈴木】
5	学校で行う内科的症に対する救急処置について (けいれん・熱中症など)【齋藤・鈴木】
6	学校で行う外科的症に対する救急処置について (骨折・捻挫・打撲など)【齋藤・鈴木】
7	学校で行う外科的症に対する救急処置について (頭部外傷・熱傷など)【齋藤・鈴木】
8	学校で行う外科的症に対する救急処置について (眼科・耳鼻科・歯科など)【齋藤・鈴木】
9	保健指導と救急処置後の事務手続きについて)【齋藤・鈴木】
10	止血法・包帯法等 演習 【齋藤・鈴木】
11	三角巾法・包帯法等 演習【齋藤・鈴木】
12	三角巾法・包帯法等 演習【齋藤・鈴木】
13	事例 (外科的症) を用いた演習 【布施・齋藤・鈴木】
14	事例 (内科的症) を用いた演習 【布施・齋藤・鈴木】
15	まとめ 【布施・齋藤・鈴木】

評価
試験 (筆記と実技) 9 割、通常の授業態度 1 割により評価し、60 点以上を合格とする。

授業外学習
【事前予習】【事後学修】学修した技術を実践なものにするために毎回の3時間程度の自己学習が必要である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)
テキスト：養護教諭のための救急処置 松野智子他 少年写真新聞社
推薦書：授業中に適宜示す

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 :

心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。

科目の概要 :

学内での講義・ロールプレイと学外での臨床講義によって展開する。ここでは、看護の視点で子どもの健康保持のために養護教諭として適切な判断と対応ができるための基礎的能力を培う。

学修目標 :

1. 感染管理に関して、学校現場にあてはめた場合、どのように取り扱うことがよいか考え、適切な対処や行動をとることができる。
2. 慢性疾患や障がいのある子ども達を地域の学校 (特別支援学校を含む) で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
3. 身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切な看護ケアが実施できる。
4. 命や性の教育について、考えることができる。

内容

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」の単位を修得している学生を対象とする。

1	ヘルスアセスメントと救急処置のプロセス
2	外科系疾患の重症度の見極めと対応
3	内科系疾患の重症度の見極めと対応
4	スポーツ障害
5	創傷保護と包帯法技術実習
6	身体不調や異常を訴える子どもへのフィジカルアセスメントと対応
7	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (発熱・頭痛・倦怠感)
8	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (腹痛・嘔気嘔吐・呼吸困難)
9	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (掻痒感・外傷・打撲)
10	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (意識障害・けいれん・不定愁訴)
11	臨床講義 (病院の機能と役割、他職種との連携と機能、病院における感染管理の実際)
12	臨床講義 (小児救急看護の実際)
13	臨床講義 (慢性疾患および障害のある子どもへの看護、病院と学校との連携)
14	臨床講義 (生命と性の教育)
15	臨床看護実習まとめ

評価

授業・実習の参加状況（50%）およびレポート（50%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまでの授業の総括になるため、今まで学習してきたものを復習しておくように。

【事後学修】実技で体験したこと等は、何度も繰り返し練習し、身につけるようにする。臨床講義で学習したことは、学校現場でどのように活かせるのか考察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A 教師のための救急百科』 大修館書店

加藤英治 『症状で見る子どものプライマリ・ケア』 医学書院

大谷尚子他編著 『養護教諭のためのフィジカルアセスメント見て学ぶ応急処置の基礎基本』 日本

小児医事出版

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

科目名	卒業研究		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。